

「ツマジロクサヨトウ」について

ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda* (英名 fall armyworm) は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯地域原産の外来種で、近年急速に分布を拡大しています。2016年にアフリカ大陸に侵入し、現在ではサハラ以南に広く分布しています。アジアでは2018年にインドで初めて確認され、2019年は中国、韓国、台湾などでも被害が確認されました。

我が国では、鹿児島県の飼料用トウモロコシで発生が国内で初めて確認され、2019年7月5日に特殊報が発出されました。その後、南は沖縄県から北は青森県まで18県で確認されました。

長野県では、侵入警戒のため県下に設置しているトラップに、県内では初めてツマジロクサヨトウの雄成虫が捕獲され2020年7月28日付で特殊報を発出しました。

また、中信地域のスイートコーンでツマジロクサヨトウ幼虫の食害が確認され、2020年9月24日付で地区情報を発出しました。

被害と診断

ツマジロクサヨトウの幼虫はトウモロコシ、ソルガム、バミューダグラス、ラッカセイ、イネ、ソバ、オーツ、コムギ等80種以上の作物を含む広範な植物の葉、茎、花並びに果実を加害します。日本国内では、飼料用トウモロコシ及びスイートコーン、ソルガム、サトウキビ、飼料用エンバク等で被害の報告があります。

日本在来の害虫であるハスモンヨトウやシロイチモジヨトウに近縁で、これらのヨトウガ類と同様に若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散します(図1)。

発生生態 (参考データ)

(1) 卵

通常150～200個、多い場合は300個の卵塊(図2)で葉裏に産卵されます。形は球形、直径0.75mm。産卵から2～10日(通常3～5日)でふ化します。(卵から成虫に必要な有効積算温度559日度、発育限界温度10.9℃)

(2) 幼虫・蛹

幼虫の大きさは終令(6齢)幼虫で体長30-40mm(図3)、幼虫の期間は14～21日。成熟した幼虫は、地面に落ちて、通常は深さ約2cmから約8cmの土中に粗い繭を作ってその中で蛹化します。中には、株の中で蛹化するものもいるようです。

蛹の大きさはオスで約13mmから約15mm、メスではやや大きく約16mmから17mmになります。蛹の期間は9日から13日です。

(3) 成虫

オス体長16mm、開張37mm、メス体長17mm、開張38mm

オスの前翅は、暗灰色と褐色で、翅端と中央に三角形の白斑を有しますが(図4)、メスでは前翅に明瞭な紋様を欠き、色は灰褐色～褐色。メスの生涯産卵数は最大1000個。

(4) その他

ツマジロクサヨトウは休眠せず、低温で活動と発達は停止し、気温が氷点近くになると、通常卵～成虫のすべての態で死滅してしまうため、長野県では越冬できないと考えられます。



図1 食害の様子（トウモロコシ）



図2 ワタ葉裏に産み付けられた卵塊



図3 幼虫



図4 オス成虫

図1、2及び4はCABI（2019）から引用

参考文献

「ツマジロクサヨトウ」防除マニュアル本編（農林水産省 消費・安全局及び植物防疫所）
侵入を警戒する病害虫に関するファクトシート（農林水産省 消費・安全局植物防疫課）
CABI（2019）*Spodoptera frugiperda*. In: Crop Protection Compendium, Wallingford, UK: CAB International. (Online),

疑わしい被害等を見つけたら、最寄りの農業農村支援センター又は病害虫防除所までご連絡ください。
長野県病害虫防除所（東北信）TEL 026-248-6471（中南信）TEL 0263-53-5642
発行 長野県病害虫防除所 令和2年11月作成